「平和について考える」

姫路あけぼの教会牧師 廣田守男

聖書)「このように、わたしたちは信仰によって義とされたのだから、わたしたちの主イエス・キリストによって神との間に平和を得ており、このキリストのお陰で、今の恵みに信仰によって導き入れられ、神の栄光にあずかる希望を誇りにしています。」

(ローマの信徒への手紙5章1～2節)

こんにちは。姫路あけぼの教会の廣田守男でございます。

今日は短い時間「平和」について導かれたいと思います。1986年、アテネで近代オリンピックを始めたフランス人クーベルタン男爵は「戦争が起こるのは、互いに相手の国を誤解するからである。異なる民族を分け隔てている誤解と偏見が無くならない限り、人類は平和を実現することは出来ない」と言ったそうです。彼は世界に潜んでいる誤解と偏見を少しでも和らげ、平和の実現を願ってオリンピックを始めたようです。今日YMCAの活動もある意味では民族を越え、人種を越え、性別を超え、年齢を超えて真実な交わりを求めておられる働きをなさり、非常に尊い存在であることを憶えている次第です。クーベルタン男爵が「平和の実現を願っていながらそこに至っていない現実」は国家間のみならず、隣近所においても家庭内においても考えられることであり、職場内でも色々な問題の根底にあることではないかと思わせられる次第です。

では、平和を損なわせる要素は何なのか？ 聖書のみ言葉から教えられたいと思います。

先ず、人間の傲慢にあります。「神に逆らう者に平和はない、と主は言われる。」(イザヤ書48章22節)とあります。私たちの内にある天地万物を創造された神様を求め信頼しようとしなさい、人間の高ぶりであることを憶えるのです。

更に、人間の内部にある欲望が平和を乱す源なのです。「何が原因で、あなたがたの間に戦いや争いが起こるのですか。あなたがた自身の内部で争い合う欲望が、その原因ではありませんか。あなたがたは、欲しても得られず、人を殺します。また、熱望しても手に入れることができず、争ったり戦ったりします。得られないのは、願い求めないからで、願い求めても、与えられないのは、自分の楽しみのために使おうと、間違った動機で願い求めるからです。」(ヤコブの手紙4章1～3節)とある通りです。これが人間の現実であり、平和を願っていながら平和が実現していない源であることを憶えさせられております。

ではどうすればよいのでしょうか。ここに必要なのがイエス・キリストの福音なのです。

イエス・キリストはその私たちが神に反逆する罪、また人間の内に巣くっている自

我、即ち自己中心、自分の欲望のおもむくままに歩む人間の罪を解決するために十字架にかかって救いの業を完成して下さったのです。ですから、私たちが神様の前に罪を悔い改め、主イエスに信頼する時、私たちの過去の罪を許して下さるのです。そして、私達の内にある罪の性質をも解決して下さるのです。即ち「神との平和」を持つ者とされるのです。そればかりか、更に「神の栄光にあずかる希望」を抱いて歩む者とされるのです。従って私たちは主イエス・キリストを信じることによって、日々罪を赦され、日々キリストによって内なる魂の汚れを潔められ、心から感謝と希望を抱いて歩む者とされている幸いを深く心に留めて歩みましょう。そしてその恵みに入れられた私たちに「終わりに、兄弟たち、喜びなさい。完全な者になりなさい。励まし合いなさい。思いを一つにしなさい。平和を保ちなさい。そうすれば、愛と平和の神があなたがたと共にいてくださいます。」（コリント信徒への手紙第二 13 章 11 節）と勧められていることを忘れてはなりません。

お互いに主イエスの十字架の功しにより、和解の福音に生かされた者として、平和を造り出すことを祈り、平和を保ち、深られることを願って歩み続けていこうではありませんか。そのところに平和の神も働いてくださることを覚えたいものです。

(姫路 Y M C A 職員礼拝奨励 2009 年)